

第 11 回山のトイレを考えるフォーラム開催にあたって

山のトイレを考える会・代表 岩村和彦

山のトイレ問題に取り組み出してから 10 年を迎えました。

第 11 回目を迎えました山のトイレを考えるフォーラムに多くの皆さんがご参加くださいますことに対し、心より感謝を申し上げます。

札幌市教育文化会館で行われた第 1 回のフォーラムから数えて 11 回目を迎えるとは會員の誰もが思いもしなかったことです。この間には様々な活動を行って参りましたが、残念ながらいまだに山のトイレ問題は解決に至っておりません。

羅臼岳にある羅臼平の木陰に入るといまだにティッシュがあちこちに散在しています。かつては一部の沢登り愛好家だけが遡行した札内川八の沢カールにも今では多くの登山者が訪れ、昔は話題にすら上がらなかったトイレ問題が深刻になりつつあります。場所によっては以前より悪化してところもあるのは事実です。

勿論利尻山のように携帯トイレが定着しつつあるところもありますが、全体でみると解決までの道のりはまだまだ遠いのが実態でありましょう。

山岳トイレの決定版とも思われたバイオトイレも、黒岳や幌尻山荘での稼動状況から多くの課題があることが分かっています。多額な経費を投入したものの理想には程遠くバイオトイレの山岳での設置には克服すべき点があります。

今年の会の大きな活動としてその黒岳のバイオトイレを取り上げています。当会が主催してバイオトイレメーカー、山岳トイレの研究者、行政を招いての現地視察と、その後のミニフォーラムで解決策を探ろうというものです。せつかく設置したバイオトイレをうまく稼動させるにはどうしたらいいのか衆知を集めたいものです。現在企画内容を検討中ですので、決まり次第何らかの形で會員の皆様にはお知らせします。

さて今年のトイレフォーラムは「改めて北海道のトイレ事情の今」と題して全道各地の山岳トイレ状況の現状認識とその解決のために私達が今できることを模索したいと考えています。黒岳や白雲などの小屋はハイシーズンには管理人がいるものの、それ以外の避難小屋のトイレは無人ということもあり、酷い状況になりつつあります。この解決のためには行政に任せるだけでは前進は望めません。登山者ひとりひとりが自分自身の問題として捉え、何ができるのか真剣に考え、行動することが切に必要とされます。勿論そのために当会が果たすべき役割も否定しません。

この一年間の活動については後述の通りです。中でも山岳トイレの研究発表会などには会として積極的に會員を派遣して技術的な勉強も続けています。これらを含めて會員の皆様のご協力、環境財団などからの活動資金のご提供などのお陰で会の活動も継続されています。ここで改めて御礼申し上げます。

今後もより一層のご支援、ご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。